

かいじょれんにゆーす ねんがつごう 介助連ニュース2011年5月号

しょうがいとうじしゃ ほさかのぶとしんくちょう めんだん 障害当事者が保坂展人新区長と面談

せんげつ にち くまもとくちょう ぜんしゅうぎいん ぎいん ほさかのぶ と せ た が や く ちょう しゅうじん ほ
先月27日、熊本区長にかわって、前衆議院議員の保坂展人さんが世田谷区長に就任しました。保
坂区長は、衆議院議員のとき、自立支援法廃止に向けた取り組みを、障害当事者とともに闘って来た
人です。大きな期待を持って、前号でお伝えした、4月から「非定型」の支給決定を受けた4名中心に区
長面談を申し入れ、5月20日に30分という短時間ですが実現しました。

区長就任わずか3週間あまりで、区長面談が実現できたことは、これからの運動にとって、大きなことだ
と思います。

ほさか くちょう じかんこうてきかいじょほしゅう めいげん 保坂区長は「24時間公的介助保障をめざす！」と明言

がつ かとうじつ かいじょれん じかんこうてきかいじょほしゅう もと しょうがいとうじしゃ かぞく
5月20日当日は、介助連としてではなく、24時間公的介助保障を求める障害当事者とその家族、
介助者、支援者という立場で、計11名が面談しました。区からは、保坂展人区長をはじめ、藤野保健福
祉部長、知久障害施策推進課長、福田区長室長が出席しました。

「非定型」決定を受けた当事者である上田要さん、遠藤滋さんは本人から、佐野雄介さんとあ
からは家族や支援者がその実態を説明し、24時間の介助保障が必要であることを区長に訴えました。事
務局からは、保健福祉部の尽力で基準の1日17時間を超える支給決定が4名に出されたが、まだ24時
間には不足であること、区内には区の公式見解でも17名の24時間介助体制の方が、むしろ2名以
外の方は未だに基準の17時間/日に留まっていること、また、支給量が足りないために、24時間入れたく
ても入れることのできな人も、いることなどを説明しました。

その上で、歴代の保健福祉部長が公約してきた「24時間公的介助保障をめざす」ということを区長から
発言してほしいと要望しました。それを受けて、保坂区長からは「私も若い頃、二日市安さん(HANDS
世田谷 初代運営委員長)の介助ローテーションに入っていたこともある。普通学校への就学を求める
金井康治君の支援にも関わっていた。皆さんが24時間の支給量に達してないことで、ご苦労されている
ことは部長 課長から聞いている。皆さんと保健福祉部とが、対立関係ではなく、対話のできている関係
の中で区長に就任できたことうれしく思う。24時間公的介助保障をめざすという基本姿勢は踏まえる。す
べてトップダウンではできないが、少しでもスピードアップしてきたい。区の基本構想にも今日の皆さんのお
話を活かしていきたい。」と発言しました。

藤野部長も「これからは、昨年度以上に、皆さんと率直に話し合っていきたい。」と応じ
ました。

くちょう ちやくせつ じかん こうてきかいじょほしゅう
区長から直接「24時間の公的介助保障をめざす」ことを

かくにん おお せい か
確認できたことは大きな成果です！

ほんとう じかんかいじょほしゅう じつげん
これからも、本当に24時間介助保障を実現するために、

うんどう も あ
ますます運動を盛り上げていきましょう！！